

7 月期相場概況

7 月期の日経平均株価は約 155 円上昇した。期中の高値は 7/14 の日中高値 9,807 円、安値は 7/6 の日中安値 9,091 円。

前期は 6 月下旬から米国景況感の悪化観測から日経平均は再び売り込まれ、4 月終わりからのギリシャショックの際の下落で W ボトムを形成していた 9,400 円のラインを割り込んで 9,382 円で引けた。

今期 7 月に入ってから、米国の景況感悪化から円高・米国株安は止まらず、ドル円は一時 87 円割れ、米国株も 2 月安値を割り込み、日経平均も 7/6 に 2 月安値の 9,000 円の大台割れ一歩手前の 9,091 円まで下落した。しかし 7/6 は午前のうちに切り返し、終値で大幅反発の 9,338 円、その夜の米国株も大幅反発し反発局面入り、その後も海外株、日経平均とも大幅の反発し、9,585 円で 7 月 SQ を迎えた。

SQ 後は米株その他海外株はしっかりとした上昇を維持していたが、日経平均はドル円の回復の鈍さからか頭の重い展開が続き、7/14 に 9,800 円を付けた後は、9,500 円を中心として 9,200 円近辺~9,700 円の狭い範囲でのみみ合いとなり、結局 9,537 円で今期を終えた。

本資料使用上の留意点について

・本資料は当社が信頼できると考える情報ベンダーから取得したデータをもとに作成されておりますが、機械上に誤りが発生する可能性があります。当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、当社の現時点での判断を示しているに過ぎません。本資料は、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の有価証券の売買あるいは特定の証券取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料にて言及されている投資やサービスはお客様に適切なものであるとは限りません。また、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。本資料の論旨と一致しない他のレポートを発行している、或いは今後発行する可能性があります。本資料の利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいませうようお願い申し上げます。